

# デーヴォ ガイド



2024.2.17-23

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## ➤ 17日 月曜

ヨハネ

【新改訳2017】

ヨハ

13:12 イエスは彼らの足を洗うと、上着を着て再び席に着き、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたのか分かりますか。

13:13 あなたがたはわたしを『先生』とか『主』とか呼んでいます。そう言うのは正しいことです。そのとおりなのですから。

13:14 主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。

13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。

13:16 まことに、まことに、あなたがたに言います。しもべは主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりません。

13:17 これらのことが分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです。

13:18 わたしは、あなたがたすべてについて言っているではありません。わたしは、自分が選んだ者たちを知っています。けれども、聖書に『わたしのパンを食べている者が、わたしに向かって、かかとを上げます』と書いてあることは成就するのです。

13:19 事が起こる前に、今からあなたがたに言うておきます。起こったときに、わたしが『わたしはある』であることを、あなたがたが信じるためです。

13:20 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしが遣わす者を受け入れる者は、



わたしを受け入れるのです。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」

イエス様は奴隷の仕事である”洗足”を行って、模範を示されました。「互いに足を洗い合うべきです」というのは、互いに相手のしもべとなって仕えるべきだということです。これはクリスチャンの人間関係の基本であり、教会のあるべき姿です。仕えてもらう者は世の中では偉い人のようですが、神の国では逆なのです。

もしも仕えることが嫌ならば、その人はイエス様よりもまさった者になってしまいます。「しもべはその主人にまさるものではない」のですから、私たちがイエス様よりもまさったものとなってしまふのは、当然おかしな話なのです。世の偉い人のお世話してもらうことを嬉しく思うよりも、仕えることを誇りとしましう。

その価値観を理解できなかったのはユダです。彼はイエス様が王のように力で支配しなかったことに、失望してイエス様に向かって「かかとを上げた」のでした。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 18日 火曜

ヨハネ



13:21 イエスは、これらのことを話されたとき、心が騒いだ。そして証しされた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」

13:22 弟子たちは、だれのことを言われたのか分からず当惑し、互いに顔を見合わせていた。

13:23 弟子の一人がイエスの胸のところで横になっていた。イエスが愛しておられた弟子である。

13:24 そこで、シモン・ペテロは彼に、だれのことを言われたのか尋ねるように合図した。

13:25 その弟子はイエスの胸元に寄りかかったまま、イエスに言った。「主よ、それはだれのことですか。」

13:26 イエスは答えられた。「わたしがパン切れを浸して与える者が、その人です。」それからイエスはパン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられた。

13:27 ユダがパン切れを受け取ると、そのとき、サタンが彼に入った。すると、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」

13:28 席に着いていた者で、なぜイエスがユダにそう言われたのか、分かった者はだれもいなかった。

13:29 ある者たちは、ユダが金入れを持っていたので、「祭りのために必要な物を買いなさい」とか、貧しい人々に何か施しをするようにとか、イエスが言われたのだと思っていた。

13:30 ユダはパン切れを受けると、すぐに出

て行った。時は夜であった。

イエス様はユダの裏切りを見抜いておられましたが、それを阻止せず実行させました。弟子たちにそれを知られないように、彼を行かせたのです。もしも弟子たちが知ったら、ユダを容赦しなかったでしょう。傷害事件になったとしても、阻止したでしょう。

イエス様は全能の神であり絶対の力を持ったかたですが、力で世を動かそうとはなさらなかったのです。ねじ伏せられた者は敵対心を持つようになります。そこには愛も平安も一致もないのです。

クリスチャンの信仰的解決はそこにあります。ことばの力、お金の力、知識の力、威圧の力、律法の力、多数派の力など様々な力がありますが、神様のみこころはただ愛によって人を変えることなのです。

イエス様は命をかけてそれをなさいました。私たちがそれに倣うとき、主は喜んでみわざを表してくださると信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 19日 水曜

ヨハネ



13:31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今、人の子は栄光を受け、神も人の子によって栄光をお受けになりました。」

13:32 神が、人の子によって栄光をお受けになったのなら、神も、ご自分で人の子に栄光を与えてくださいます。しかも、すぐに与えてくださいます。

13:33 子どもたちよ、わたしはもう少しの間あなたがたとともにいます。あなたがたはわたしを捜すことになります。ユダヤ人たちに言ったように、今あなたがたにも言います。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません。

13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

13:35 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

13:36 シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ、どこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。」

13:37 ペテロはイエスに言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます。」

13:38 イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

イエス様の十字架が決定的になったことで、イエス様は「栄光を受けた」と言われました。世の勝利者としてではなく、救い主としての栄光です。十字架にまで従ってご自分を無になされたことが、救い主の栄光です。

私たちクリスチャンも、神の前の栄光がそういうものであるということをお忘れしないでいきましょう。人を救って生かすために、自分を犠牲にできる姿勢こそが栄光なのです。

そしてだからこそ、他者愛する者がイエス様の「弟子」であるのです。愛の弟子になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 20日 木曜

ヨハネ



14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。  
14:2 わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意に行く、と言ったのでしょうか。

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

14:4 わたしがどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています。」

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょうか。」

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

14:7 あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになります。今から父を知るのです。いや、すでにあなたがたは父を見たのです。」

14:8 ピリポはイエスに言った。「主よ、私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。

14:10 わたしが父のうちにおいて、父がわたしのうちにおられることを、信じていないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、自分から話しているではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざを行っておられるのです。

14:11 わたしが父のうちにおいて、父がわたしのうちにおられると、わたしが言うのを信じなさい。信じられないのなら、わざのゆえに信じなさい。

14:12 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。

14:13 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。

14:14 あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。

イエス様の十字架と復活は、私たちに救いと永遠の命を与えてくださいましたが、さらには天国を備えてくださったという面もあります。イエス様にとって救いとは、イエス様と「ともにいるように」してくださるという意味もまた重要なのです。私たちを愛するイエス様にとって、私たちの救いとは、天という“場所”に行くことよりも、“イエス様のもと”に行くということなのです。

イエス様は教えを広めたのではなく、ご自身との交わりを実現してくださったのであり、その意味でまさに、イエス様が「道であり、真理であり、いのち」なのです。

学びも奉仕も大切ですが、イエス様との関係こ

そ大切にし、そのための学びや奉仕でありましょう。また何よりもイエス様を礼拝することを第一にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 21日 金曜

ヨハネ

14:15 もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいませ。

14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。

14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたのところに帰って来ます。

14:19 あと少しで、世はもうわたしを見なくなりませう。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生き、あなたがたも生きることになるからです。

14:20 その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。

14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です。わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します。」

14:22 イスカリオテでないほうのユダがイエスに言った。「主よ。私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、どうしてですか。」

14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでも



わたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

14:24 わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わされた父のものです。

聖霊は真理の御霊であり、クリスチャンしか知ることができません。また「うちにおられる方」です。イエス様が天に行かれて「見なく」なっても、聖霊によってイエス様を「見ます」ということが実現するのです。そして愛によってイエス様の「戒めを保つ」ようになるのです。

クリスチャン生活は自由なものであり、教会でも本人の意思に反して、何かをさせられるということはありません。それは何でも勝手にやればよいというのではなく、聖霊によって内からみこころを行いたいという思いが与えられるのです。

聖霊を愛して喜んで従うとともに、他の人に働かれる聖霊のわざを、また教会に働かれる聖霊のわざを尊び、主の導きに従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 22日 土曜

ヨハネ



14:25 これらのことを、わたしはあなたがたと一緒にいる間に話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

14:28 『わたしは去って行くが、あなたがたのところに戻って来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを、あなたがたは喜ばずです。父はわたしよりも偉大な方だからです。

14:29 今わたしは、それが起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったとき、あなたがたが信じるためです。

14:30 わたしはもう、あなたがたに多くを話しません。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることができません。

14:31 それは、わたしが父を愛していて、父が命じられたとおりに行っていることを、世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。

イエス様と直接交わった者でも、多くは何も理解しないで、また信じないで終わってしまいました。聖霊によらなければ「教え」られないからです。この世の知恵や学問というものは、限りなくたくさん

ありますが、救いに至る真理は聖霊によるものです。本当の知恵があることを感謝し、それをさらに確かなものとし、分かち合いそして人々に伝えましょう。

その真理こそが「平安を与える」ものですから、問題を抱えている人に対しては、この世の知恵よりも、イエス様が残してくださった平安を分かち合いましょう

「さあ、ここから行くのです。」とイエス様はいつも私たちを、この世に送り出されますが、それは聖霊によって、守りと真理が与えられているからです。毎日、聖霊さまによって聖霊様とともに、この世に出て行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。

15:2 わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。

15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。

15:4 わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

15:6 わたしにとどまっていなければ、その人は枝のように投げ捨てられて枯れます。人々がそれを集めて火に投げ込むので、燃えてしまいます。

15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。

聖霊によってイエス様と一つになる生き方は、ぶどうの木のようにであると、イエス様は分かり易く教えてくださいます。

それは第一に、神とつながっているということです。「枝がぶどうの木にとどまっていなければ」とあるように、イエス様から離れては「何もすることが」できません。生き方、祈り、みことばによってイエス様とつながり続けましょう。

第二に、「実を結ぶ」ということです。私たちクリスチャンはただ歩んでいけばよいというのではなく、実を結ぶために生きているのです。それは救いの実であり、聖霊の実です。すなわちこの世の人々が救われることと、私たちの内面が愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自省で満ちることです。

第三に、「刈り込み」があるということです。人間の願いが何もかも実現するということは不可能です。中にはみこころに反するものもあります。主のハサミが入ることは恐れも感じますが、それは、よりすばらしい実に集中することによって、よい結果がもたらされるためです。安心して主にお任せしましょう。主から見て、必要がないと思われるものは信仰によって手放しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

